

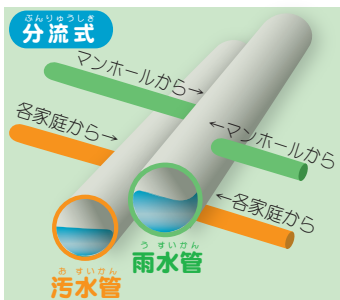
第11回 下水処理場で困っていること!

下水処理場では細菌や微生物を育てているため、「微生物は元気かな?」「今日はえさは足りているかな?」などと、いつも心配することがあります。しかし、それ以外にもいろんな心配事を持っています。それはどんなことだと思いますか?

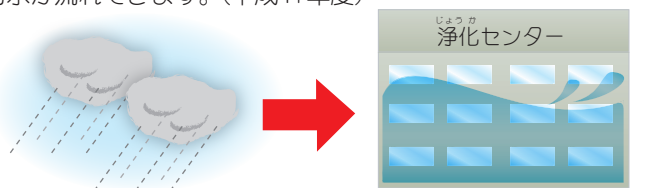
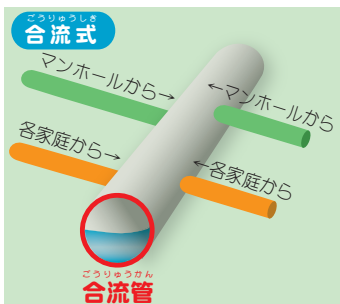
台風や大雨の心配

三重県の流域下水処理場で一番問題になっているのは雨なのです。

下水道には分流式(雨が落ちてこないもの)、合流式(雨と一緒に流れてくるもの)の2種類がありますが、三重県の流域下水処理場は、分流式という方法で行っています。分流式では、下水処理施設でも雨が入らないことを前提に施設がつけられています。そのため、汚水と雨が混ざった水の量は処理することができません。雨は、直接海へ流れていきます。



しかし、分流式では本当に雨が落ちてこないのでしょうか? 実際はかなりの量の雨が流れ込んできています。(雨水ですが、入ってくる場所がわからないため、「不明水」と呼ばれています)津市にある雲出川左岸浄化センターへは、雨が1mm降ると、約100m³の雨水が流れ込んできます。(100m³の水=100トンの水)晴れた日には1日約20,000m³の汚水が入ってきます。少ない時間と多い時間があるお話は前にしましたね。少ない時間は約400m³、多い時間は約1200m³で、平均にすると約833m³の汚水が流れてきます。(平成17年度)



雨が1mm降ると・・・

100m³の雨水が流れ込む

平成16年9月に降った雨では、雲出川左岸浄化センターでくみ上げる能力以上の水が流れ込んだため、汚水がマンホールからあふれてしまいました。他の浄化センターも雨水は流れ込みましたがあふれるまではいきませんでした。

マンホールから汚水があふれると・・・



マンホールから汚水があふれると、衛生的に良くないことと、皆さんのおうちなどの財産を汚してしまいます。またトイレが使えなくなってしまうので、大変なことですね。このような大雨が降ったときには、通常の汚水処理以上の汚水を処理しなければいけないため、通常以上の水は最初沈殿池のみで処理をし、殺菌して海へ流されます。処理水を法律の基準を守って海へ流していますが、いつもよりも汚れた水をたくさん海へ流すことになるため、下水処理場で働くものにとっては本当はやりたくありません。しかし、街を汚水であふれさせることはもっと良くないため、どうすれば一番良いのかいつも悩まされます。

不明水の原因

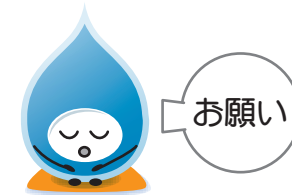
下水道管をつなぐときに雨の流れる管も一緒につなげてしまう間違い。

下水道管の劣化などにより、地下水が流れ込んでいる。

このようなことが考えられていますが、原因も場所もはっきりわかっていません。市町の下水道課が、この原因や対策を行っていますので確認してみてください。

気になる天気予報

浄化センターでは毎日、天気予報は必ず確認しています。台風や大雨が降りそうときには、下水処理場に流れ込んでいる水を先にすべて処理してしまいます。また、活性汚泥が雨と一緒に流れてしまわないように微生物の管理もしていますよ。



海をきれいにするために、皆さんの生活の中で、たくさんの雨が降っているときには、生活の時間(お風呂や食事)をずらしたり、洗濯を後回しにするなど、水が多く流れてこないように工夫をしてください。